

ネット 新世紀

ヨーロッパ

vol.5 Internet New Century Europe

自由な文化を支える インターネット

ベオグラード
Belgrad

岡田 智博

Tomohiro Okada

 coolstates.com

ヒマラヤの小国ブータンでは、インターネットを用いた遠隔教育や衛生、生活情報のやり取りを実現する情報デザインづくりの取り組みが始まっているそうです。そして、この取り組みを行っているスタッフに情報を提供するサポートプロジェクトが日本で立ち上がりました。私も何ができか考えている最中です。

メディア統制下で「B92 開局」

旧ユーゴスラビアは20世紀末の数年間、紛争による悲劇を伴い混沌とした情勢にあった。しかし人々は文化的に生きていくことを守り、その1つの手段としてインターネットが果たした役割は大きかった。今回は、ユーゴスラビアの首都ベオグラードを取り上げ、独裁政権下や紛争など混沌とした情勢下においてもインターネットを武器に自由な文化を辛抱強く保ち続けた人々に焦点をあてる。

東西冷戦下、チトー大統領独自の社会主義政策によって、当時のユーゴスラビアの人々はニューヨークにもモスクワにも行くことができるパスポートを持っていた。東西の最先端の文化が交流するこの特殊な環境により、若者たちは社会主義体制下にあっても貧しくはあったが文化的な刺激を受けて好奇心を働かせていた。そのため、当時から何とかコンピュータを手に入れて、画像や音楽を制作する人々の姿も見られていた。

チトーの死後、冷戦が終了すると民族主義の旗のもとで連邦は分裂し、民族主義者による独裁に向かった。既存メディアが統制されて文化的に息苦しくなっていたが、一部の若者たちは自らの力でメディアを興し始めた。なかでも学生イベント用の臨時免許を取って開始したラジオ局「B92」は、政府や要人の息がかかったほかの放送局とは異なり、独自の視点で番組を制作した。その結果ベオグラードでもっとも人気の高い放送局となり、免許の期限を過ぎても放送が続けられた。報道姿勢はその後変えず、1996年末にボスニア紛争でセルビアへの圧力がピークに達して市民によるミロセビッチ大統領に対する民主化を要求するデモが高まったときも、客観的な視点でこのデモを生中継し続けたのがB92だった。しかし、これがついに政府の逆鱗に触れて、強制的に放送を停止させられるという憂き目にあってしまった。

インターネットで劇的な復活

B92は送信設備まで奪われたものの、かねて親好を交わしていたオランダなどのメディアアクティビストに呼びかけ、インターネットを経由して当時ハッカーらが経営していたアムステルダムのISP、XS4ALL（2001年6月号参照）のサーバーを使い、リアルネットワークスの協力のもとにインターネット放送を開始した。放送は世界中が注目するところとなり、セルビア政府は長期の放送許可を許すまでに至った。これはインターネットを通じて世界にメッセージを出し続けているかぎり、国際世論のもとで自由で文化的な表現が可能になることを示したかたちだ。B92はラジオそのものの再開後もインターネットでの配信に注力した。

B92はその後、世界的に著名な投資家であるジョージ・ソロスの財団などから支援も受けて、ラジオのみならず音楽CDやビデオも制作した。このほか「追いつめられて無気力になっているユーゴの若者に自分自身で生き方を創造して変えることができることを実感できる場所にした」（カタリナ・シヴァノビク「サイバーレックス」ディレクター）というコンセプトのもと、誰でも自由に利用できるデジタル工房「サイバーレックス」や、企画持ち込み歓迎のデジタルシアター「シネマレックス」も運営した。

空爆が開始されても活動を継続

1999年春、セルビア南部コソボのアルバニア系住民に対してセルビア政府が圧力をかけて再び政情不安になった。生活は息苦しくなったが、サイバーレックスとシネマレックスはコミュニケーションを求める若者たちでにぎわっていた。NATO軍による空爆1週間前の夜、シネマレックスでは毎月恒例のメガデモ大会（プログラム技術のみでCGを描く技を競う会）が開催され、瓶ビールを手にした若者たちでごった返し、サイバーレックスのほう

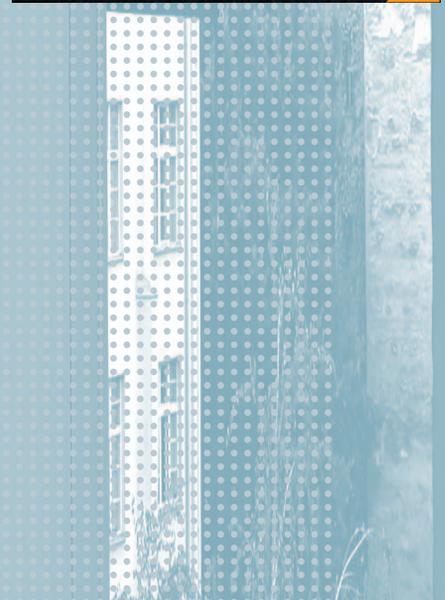
も情報交換する人々で熱気を帯びていた。

空爆が開始されるとB92は政府によって放送機材を奪われ、シネマレックスとサイバーレックスの建物も封印されてしまった。しかし、今回も彼らはめげずに、あるスタッフたちはそれまでの実績とネットワークを頼って国を離れ、欧州各国や米国に散った。各地のメディア文化センターや美術館に滞在して、インターネット上での情報発信活動を展開したのだ。国に残ったスタッフも商用ISPを通じてセルビアの日常や空爆下のような状況を国外に配信した。そして、サイバーレックスで育った若者はPCや機材を持ち寄り、ISPを通じて同様に表現を続けた。

自由のなかでの表現活動が焦点

空爆が収まってからのB92は、民放ラジオの番組として復活してはつぶされるということを繰り返し、サイバーレックスも取り締まれそうになるたびにオフィスを移動した。この一方で、若者たちは映像フェスティバル「インターナショナルローファイビデオフェスティバル」を開催するようになり、昨年は実写のビデオからCGムービーまで多種多彩な70作品以上が上映される盛況ぶり。こうした作品で楽しませてくれる人々が、空爆直前にメガデモを見せてくれた人々なのだ。

そして昨年、セルビア市民の忍耐強い取り組みはミロセビッチ大統領を失脚に追い込んだ。新大統領のもとで復興に動き始めた半面、「独裁者の民族主義者から民主主義を重視する民族主義者になっただけ」(国際NGOの情報化担当ディレクター)という現実もあるが、B92は初の合法的な放送局として本格的に再開され、テレビ放送も開始した。サイバーレックスもベオグラードのデジタルカルチャーのハブとして拡大しつつある。ただ、ハングリーゆえに創意工夫してきたベオグラードの若者たちが、自由のなかで今後何を創造していくのかは未知数だ。



- ① 空爆直前のB92のオフィス
- ② B92のスタジオ
- ③ 政変直前に都心のオフィスビルで撮影
- ④ 空爆1週間前のメガデモ大会
- ⑤ ベオグラードの市街を望む

参考URL

- B92  www.b92.net
- サイバーレックス  www.cyberrex.org
- ローファイビデオムーブメントを展開しているアーティスト集団「ザドルガ」のサイト  www.crsn.com/zadruga/



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp